明法中学校・高等学校
MEIHO Junior & Senior High School

リアルな課題に触れ、解決方法を考え、主体的に行動できる人に。

「世界平和に貢献する人材の育成」という建学の精神の下海外研修や各教科でSDGsに取り組む明法中学・高等学校。海外研修に参加した岩永玲子さん、生徒会でSDGsに取り組む原田尚彦さんと鎌倉好男先生に話を聞いた。

できることの幅をもっと自分なりに広げていきたい

岩永 玲子さん（高校2年生）

SDGsについて、自分に何かできることはないかと考えていた時に、カンボジア教育ボランティア（SDGs海外研修）の活動を知り、参加を決めました。活動の内容は主に村の小学校での日本語と英語の授業のサポートや村の人たち、現地高校生とのSDGs交流です。村の子どもたちは、とても学習意欲が高く「学びたい」という気持ちが本当によく伝わってきました。それなのに、一人ひとりが自分の教科書を持っておらず、勉強道具も満足に揃っていないという状況に大きなギャップを感じました。現状を目の当たりにしたのだから、身近なところから、少しずつでも自分ができることを考え、行動につなげていきたいと考えています。

一人ひとりが身近に意識することから変えていければ

原田 尚彦さん（高校3年生）

ニュースなどでSDGsという言葉は知っていましたが、実際に自分の日常や身近な物事と結び付けて考えられるようになったのは、英語の授業がきっかけでした。英語の教科書には、国際問題や環境問題に関連したトピックがあり、多くがSDGsの17の目標のどれかに関連付けることができるのです。知ったからには、できることから行動しようと、生徒会で、SDGsの啓蒙活動を行いました。多くの人がSDGsについて知り、一人ひとりができることを考えることが大切だと感じています。学生の自分たちにもできることがたくさんあることを伝えていきたいです。

知り、体験することでSDGsを「自分ごと」に

鎌倉 好男（教頭 兼 国際教育担当）

明法中高では、SDGsを教育プログラムに取り入れています。カンボジアでの海外研修をはじめ、探究や情報などの授業にもSDGsを組み込むことで、生徒たちの意識も少しずつ変化しているように思います。10代の柔軟な頭と心で、世界の現状と未来について「知ること」は非常に意義のあることです。加えてボランティアなどに参加して「原体験すること」で、それは生徒たちの「課題解決に向けた行動」につながっていきます。SDGsに触れ、考えることは、実社会の問題の解決の糸口を探ることです。だからこそ、学びにリアリティーが生まれ、社会の課題が「自分ごと」になるのだと感じています。現在、オンライン学習&交流を活用した「コロナ時代の新たなSDGs海外研修」を構築しています。

School Information
明法高等学校（共学校） MEIHO SENIOR HIGH SCHOOL
明法中学校（男子校） MEIHO JUNIOR HIGH SCHOOL
〒189-0024 東京都東村山市富士見町2丁目4-12 URL：https://www.meiho.ed.jp/

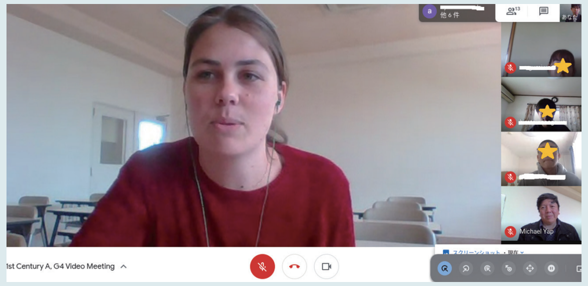
明法中学・高等学校の取り組み

学校設置科目「21世紀」でSDGsについて考える

SDGsの17のゴールは、そのどれもが私たちの日常に結びつけることができる目標です。だからこそ、生徒一人ひとりが「身近なこと」「自分ごと」として捉えることが目標達成への第一歩。明法中高では、学校設置科目「21世紀（高2・3対象）」で、学習内容とSDGsを結び付け、SDGsへの理解を深めるとともに、日常の意識や行動を変える気づきとなるような授業を展開しています。知り、課題を見つけ、行動することで、新たな問いに気づく。そんな「知」のサイクルを身につけてほしいと考えています。

コロナ禍の臨時休校中も「学びの継続」に挑戦

授業はすべて英語で行われ、年間を通してSDGsについて探究的な学びを行いながらListening & Speakingと Reading & Writingの英語4技能を高めていきます。新型コロナウイルスの影響で臨時休校が続く中、今回の危機を「ピンチはチャンス」ととらえ、「21世紀」の授業を完全オンラインに切り替えることに挑戦しています。



□双方向のオンライン授業でSDGsを学習

プラットフォームであるGoogle Classroomを基盤に、課題の提示や回収はGoogle Slide/DocumentやGoogle Forms、オンライン授業はGoogle Meetを使用。「世界の課題を解決できる（世界に挑戦できる）」人材育成に向けて、「学びの継続」に挑戦しています。

21世紀型の海外研修プログラムへ

明法中高は、2018年度より希望者対象（中3～高2）の海外研修を21世紀型のプログラムへと再編しています。電気・水道・ガスのない途上国の農村に民泊しながら、村の小学校で英語・日本語の授業ボランティアを行う「カンボジアSDGs研修」は、（一社）ボランティア・プラットフォームと共同で独自のプログラムを開発しました。主に、SDG1、4、6、8に貢献することを目的に内容が組まれています。また、オーストラリアのメルボルンで実施される語学研修にも、SDG12、13、14、15など地球環境課題について学ぶフィールドワークを実施しています。

□カンボジアSDGs海外研修の様子

思考力・想像力・表現力を育み、伸ばすために

明法中高では、グローバル社会の担い手となる生徒たちの「ICTを活用した英語によるプレゼンテーション力」を伸ばし、国際的視野を育むために、「21世紀型中学生英語プレゼンテーションコンテスト」を開催しています。昨年度大会の演題は「How we can contribute to SDGs（SDGs達成に向けて、今、私たちができること）」。10代前半からこうした視点を持ち、課題に取り組むことで、これからの時代に必要とされる力を育んでいきます。

□中学生対象の英語プレゼンテーション大会